

島根県公立小中学校  
事務職員研究会

会長：青山悦子  
(松江市立川津小学校)

編集：情報部

VOL.63 2018.8.8 (夏祭り号)

発行責任者 蘿 恵 (志学中学校)

島事研ホームページ

<http://www.oh-net.com/~kenjiken/>

# 爽

S O U

## 【目次】

- ▶ 「学びの環境をデザインする」学校事務職員をめぐして (会長)
- ▶ 研究部コーナー
- ▶ 島事研代議員会報告について
- ▶ 研修報告
- ▶ 出雲市小中学校事務支援グループの取組
- ▶ 人権コーナー
- ▶ まんが「フーちゃん」



## 「学びの環境をデザインする」学校事務職員をめぐして

会長 青山 悦子

会長 2 期目を務めることになりました。松江市立川津小学校の青山悦子です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年は、学校教育法改正により学校事務職員の職務規定が改正され、「事務に従事する」から「事務をつかさどる」となった画期的な年になりました。「つかさどる」規定への改正の目的について、「管理職や他の教職員との適切な業務の連携・分担の下、その専門性を生かして、より主体的・積極的に校務運営に参画することをめざす」とあります。このことはまさに、「島事研ビジョン 2015」に掲げた

「学校事務職員として学校力の向上に資するためには、子どもの学びの環境を他の教職員等とともに創造し、学びの質を高めること (= 学びの環境をデザインすること)」 = つかさどる と言えるのではないのでしょうか。

来年度はいよいよ第 51 回全国公立小中学校事務研究大会岡山大会での分科会発表です。研究部を中心として準備を進めています。今年の研究大会ではその中間発表を行います。「学びの質の向上につながる学校事務の展開～教育活動へのより深い関わりをとおして～」島事研の研究テーマはまさに、つかさどる学校事務職員をめざした研究テーマとなっています。

ところで皆さん、『ESD』という言葉をお聞きになったことはありますか？これは【持続可能な開発のための教育】といって、誰もが住みよい社会をつくるために私たちがすべきことを考える教育のことです。今年の研究大会には、この ESD の第一人者である住田昌治校長先生（横浜市立日枝小学校・浜田市出身）を講師にお招きしています。「教育改革」や「働き方改革」にもつながるお話が聞けるとおもいます。学校事務職員はもちろんのこと、管理職をはじめ学校に勤めるすべての教職員に聴いていただきたい講演です。案内が届いたら、是非、職員室で話題にしてください。

また、今年度は 2 年に一度のセミナーの開催年です。昨年度会員の皆様よりアンケートをとり、研修部を中心に皆様の期待にこたえられるセミナーにしたいと張り切っています。こちらは島根県教育センター新任教頭研修の講師でもおなじみの久我直人先生（鳴門教育大学）に講師をお願いしています。「次世代の学校」や「業務改善」についてもわかりやすく教えていただけたらと思います。ご期待ください。

今年度も、会員の皆様が、一歩でも踏み出せるきっかけとなる研修を用意しています。「学びの環境をデザインする」そして、「事務をつかさどる」学校事務職員をめぐして、ともに頑張りましょう。



研究部 部長 岡田 由美



早いもので平成30年度も1学期を終え、夏休みを迎えました。暑い暑い毎日が続いておりましたが、皆さん体調を崩さずお過ごしでしょうか。私の勤務校（小学校）の普通教室にはまだエアコンが設置されていません。暑期中、扇風機1台の風だけで、汗をかきながら一生懸命学んでいる子どもたちと教壇に立っている教員。学習効率だけでなく健康面も考慮した環境の改善が早急に必要だと感じる日々です。



さて全事研岡山大会研究発表までいよいよあと1年となりました。今年度の県大会ではその中間発表として研究の経緯と今後の展開について、島根大学教職大学院准教授／熊丸真太郎先生に指導助言をいただきながら会員の皆さんにお話する予定にしております。研究部・研究委員会では、第五次研究中期計画、そして“つかさどる”への法改正\*<sup>1</sup>、また平成30年2月に策定された島根県公立小・中・義務教育学校事務職員人材育成基本方針をふまえながら、学びの質の向上はもちろん学校経営ビジョンの実現・学校教育目標の達成につながる学校事務の展開ができる研究になるよう努めていきます。是非たくさんの皆さんに県大会に参加いただき、島事研がめざす学校事務職員像の共有の場にしていくことができるよう考えております。

\*<sup>1</sup> 義務教育諸学校等の体制の充実及び運営の改善を図るための公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律等の一部を改正する法律／平成29年4月1日施行

## ★全事研大会岡山大会／発表概要



- 全事研第9次研究中期計画 年次別課題 「ビジョンと戦略」
- 全事研岡山大会 大会テーマ 「ビジョンを実現する学校経営戦略」
- 島事研分科会 研究テーマ  
「ビジョン実現に向けて“楽しまねば Shimane★Ver.”  
～戦略の実効性を高めよう～」

島事研第五次研究中期計画（『学びの質の向上につながる学校事務の展開～教育活動へのより深い関わりをとおして～』）推進の要として2年間実施したモニター地区（出雲市・浜田市）での取組及び実態調査の結果を、全事研第9次研究中期計画における戦略領域（年次別課題）『ビジョンと戦略』に照らし合わせ、学校のビジョン実現に向け戦略の実効性を高める方策にせまる。

## ★島事研益田大会【全国大会中間発表】／発表概要

島事研では第四次研究中期計画から、常に学校教育目標や学校のビジョン、また島事研で掲げたテーマを見据え、PDCA サイクルで仕事を進めることができるようマネジメントシート等を活用した取組を行ってきました。第五次研究中期計画では日常の気づきを基に、実態に応じた問題発見・課題解決につなげることができるよう逆転発想マネジメントシートとあっとん@タグの活用を提案しました。それらの活用の推進及び検証を行い研究につなげるために、モニター地区を設定しました。それらの取組をとおして、実態に応じた問題発見・ビジョンに沿った課題解決には何らかの手立てやしきみ作りが必要ではあるが、学校事務職員それぞれの性格や経験から派生する得手不得手があり、限定されたツールの提案では効果が生まれにくいことにも気づきました。そこで、これまでの調査の分析や実態から、学校事務職員の働き方について傾向をタイプ化し、タイプごとに戦略への関わり方（具体的な方策）を探っていきます。

○これまでの研究経緯の報告と説明をします。

（第五次研究中期計画～全国大会発表、全事研第9次研究計画と年次別課題）

○研究部が考えた“タイプ別戦略への関わり方”について説明します。

○自己分析により“タイプ”を割り出します。

○“戦略への関わり方”について近くの人と簡単なグループワークを行います。

○グループワークでの情報交換の内容を全員で共有します。

○全国大会に向けて今後の展開をお話しします。

### たくさんの皆さんの参加をお待ちしています！



今年度の研究部員です♪ よろしくお願ひします。

◎部長：岡田由美（塩冶小） ○副部長：兒玉和寛（横田中） ※副会長：今若淳子（大社中）

【部員】 木戸清治（大田小） 佐伯圭一（横田小） 奥井洸介（遙堪小） 白瀬愛美（静間小）

# 島事研代議員会報告について

副会長 吉賀 孝則

会員の皆様には、島事研活動に対しご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

6月1日に開催をしました代議員会で、今年度の活動計画及び予算等について、審議・承認されました。出席された代議員の皆様には慎重な審議をしていただきありがとうございました。

さて、審議事項の一つに、研究大会における「大会総括」の1年先送りに伴う、第五次研究中期計画の延長を提案しました。既に、各地区の代議員又は理事から報告があったかと思いますが、改めて報告します。役員会としては計画当初、平成31年度（第50回研究大会）を大会総括としていました。しかし、同年度に開催される全事研岡山大会（分科会発表）に向け、研究部を中心に島事研役員等で構成した研究委員会で取組を進める中で、役員等の負担や日程等をふまえ、次の表のとおりとしました。

開催年度	大会	主管管内	研究発表
平成27年度	第46回	松江	隠岐・松江
平成28年度	第47回	出雲	出雲・浜田
平成29年度	第48回	浜田	松江・益田
平成30年度	第49回	益田	全事研岡山大会中間発表
平成31年度	第50回	松江	大会総括



開催年度	大会	主管管内	研究発表
平成27年度	第46回	松江	隠岐・松江
平成28年度	第47回	出雲	出雲・浜田
平成29年度	第48回	浜田	松江・益田
平成30年度	第49回	益田	全事研岡山大会中間発表
2019年度	第50回	松江	全事研岡山大会報告
2020年度	第51回	出雲	第五次総括・第六次提案

なお、会員の皆様には、大会総括や第六次研究中期計画の策定に向け、各理事を通じてアンケート等を依頼する場合がありますので、ご協力をお願いします。また、第52回大会の運営及び研究発表が円滑に行えるよう、事前に第六次研究中期計画等の骨子をお示しします。

## 研修報告

### 『主任主事研修に参加して』

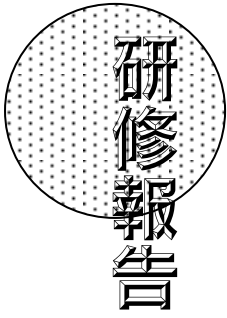
大田市立温泉津小学校 河野 詩織



6月28日・29日に島根県教育センターで行われた主任主事研修に参加しました。2日間をとおして、人権・同和教育をすすめるために、問題解決能力の向上、県の教育施策についてなど様々な講義・演習がありました。そのなかでも特に印象に残っているのは“職員室のコミュニケーションと協働”という講義の中で、よりよい人間関係を構築するための『聴く』と『伝える』について学んだことです。Youメッセージ（＝あなたは〇〇ですね）より Iメッセージ（＝私は〇〇なんです）という言い方を使って自分の思いを相手に伝えると、相手の気持ちに配慮した言い方になります。実際に隣同士で言い方によって相手はどう感じるかも体験し、円滑なコミュニケーションのできる職員室にしていくために大切にしていきたいことだなと感じました。

また人権・同和教育についての講義の中で、人権感覚とは？という話を聞きました。「色々な見方で物事を考えることができる力・色々な見方で受け止めることができる力＝人権感覚」と説明されていて、偏見にとらわれない見方ができるよう心がけなければと思いました。この人権感覚を磨くことが、学校の中で教職員や子どもたちが必要としていることの気づきに繋がるということでした。

この研修では、全体的に隣同士やグループで話し合う活動が多く、経験年数や年代が近い方々と日頃の悩みや感じていることを共有することができ、とても有意義な時間を過ごすことができたと感じています。



# 教職員等中央研修 (第1回事務職員研修) に参加して



松江市立玉湯小学校 三島 聖子

6月4日(月)～6月8日(金)までの5日間、つくば市にある「教職員支援機講」で行われた教職員等中央研修(第1回事務職員研修)に参加させていただきました。

前日から宿泊施設に入り、近くで夕食、前もって発送していた荷物を受け取り、自室の片付けをして翌朝からの研修に備えました。

こうして研修がスタートしました。参加者は全国各都道府県から約190名、年齢も若い方からベテランの方まで様々な年代の方が参加しておられるのだなという印象を持ちました。島根県からは私を含め4名の参加でした。

カリキュラムマネジメント、地域との連携、リスクマネジメント、財務マネジメントなど文部科学省や大学の講師による教育施策や各分野の最新情報について、どれも充実した内容の研修でした。ほとんどの講義でグループワーク形式が取り入れられていました。自分とは異なる考えを聞くことで、新たな気づきがあり、講義の内容に関する理解を深めることができたように思います。私はこの仕事に就いてから昨年まで一人配置での勤務であったため、同じ職種の人と意見交換し、異なる考えから新たなことに気づくという機会が少なかったと思います。他者と意見交換することで、このように考えを深めることができたことは貴重な体験でした。

また、カリキュラムマネジメントは私たち学校事務職員がどう関わっていったらいいのだろう…!?と一番わからないなと思っていたのですが、講義を受け、それとは認識していなかったけれど、これまで行ってきたことの中にもあるのだなということを感じました。少し安心すると同時にこれまで意識せずにやってきたことも、意義をもってやっていきたいと思いました。

一日の研修の終わりにはユニットミーティングという20人程度の組(ユニット)での情報交換がありました。全国様々な地域の情報が聞け、これまでとは違った視点を持つことができるようになったと思います。

また、この研修は宿泊研修であるため、研修中以外にも参加者同士が交流できる機会が多く、5日間の生活の中でいろいろな方とお話することができ、楽しい思い出となりました。

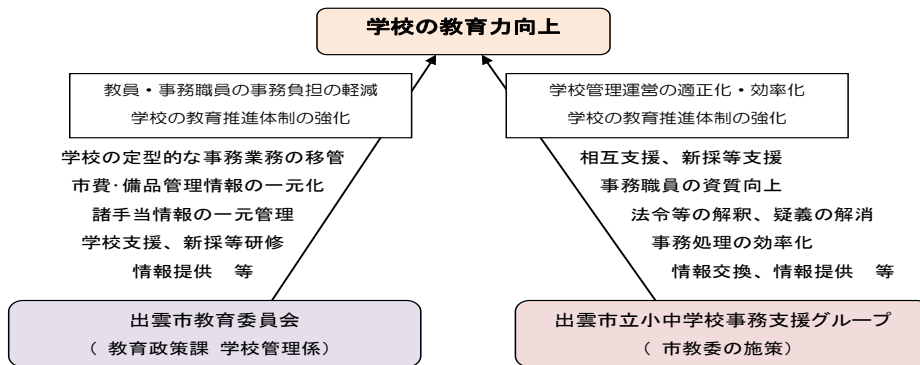
今後は、たくさんの若い世代の方々が参加されると思います。早い時期に全国の情報に触れることで、様々な視点をもって仕事をしていけるようになるのではないかと思います。



# 出雲市立小中学校事務支援グループ

# 明日へつなぐ取組

## 1 出雲市の事務支援体制



## 2 出雲市立小中学校事務支援グループ

### ① 目的

学校の管理運営に係る業務を組織的かつ集中的に処理し、学校管理運営の適正化・効率化を図ることにより小中学校の教育推進体制を強化することを目的とする。

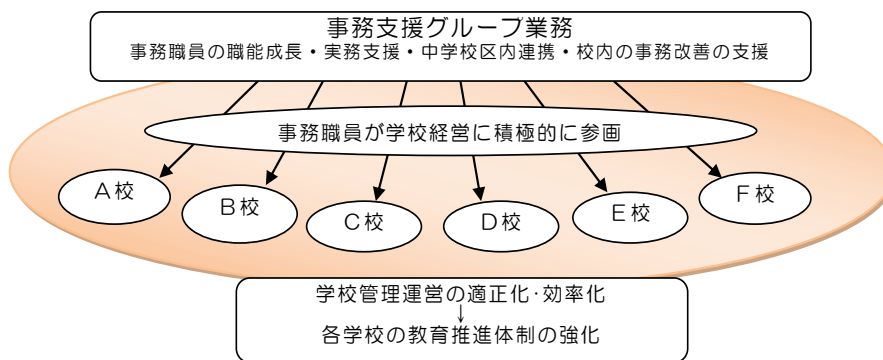
### ② 設置・実践

- 「出雲市立小中学校事務支援グループ設置要綱」、出雲市立小中学校事務支援グループ組織運営要領」
- 出雲市教育委員会教育長「委嘱書」交付・・・正副統括グループ長，正副グループ長の委嘱
- 島根県教育委員会教育長「兼職」発令・・・グループ内学校の相互事務支援可能

### ③ 業務

- 組織運営に関する事務・・・業務計画・報告，関係機関との連絡調整，次年度業務検討
- 集中処理により効率化を図る事務・・・給与・旅費関係の審査点検
- 学校支援のための事務・・・事務業務全般に係る情報共有・事例研修，校内各種説明資料の共有，校務支援システム運用
- 学校支援・・・グループ内学校相互支援，新採事務職員等の支援，事務職員未配置校支援，事務改善推進

### ④ 効果



## 3 明日へつなぐ今年度の取組

出雲市の学校事務支援グループ制度は開始から13年目となった。これまでの取組で、情報の共有や実務支援が浸透し、事務職員の担当業務領域の拡がりとともに、事務職員の資質・能力の向上および事務の効率化などに大きな成果があがっている。また、開始前に心配された事務職員の急激な世代交代による事務業務の停滞や質の低下も事務支援グループ業務により解消されている。

今年度は、これまでの実践の蓄積をもとに、「共同学校事務室」を見据えた事務支援グループ業務運営をすすめている。「出雲市小中学校事務支援『all出雲』（＝共同学校事務室）構想」（右表）で示すように、**学校の課題解決を強く意識し実現できる組織**をめざし、グループ業務で課題を共有し、課題解決に向けて「課題・目的別MTG（ミーティング）」を取り入れ実践を試みる。

## 出雲市小中学校事務支援「all出雲」(=共同学校事務室) 構想

### ★めざす組織像

- I 共同学校事務室の設置目的・存在意義を学校の課題解決とらえ、学校の課題解決を強く意識し実現できる組織
- II 運営の中心に課題・目的別MTG（課題を絞り、目的を明確にしたMTGを開催することで、会議の効率化など業務改善を図ると共に、質の高い結果・成果を得ることが期待できる）を据えて、課題解決を図る組織
- III 事務リーダー（または正副G）がチームの中心となり、共同学校事務室のマネジメントを行う組織
- IV 出雲市の事務職員全員が機能する組織

◎ <b>県教委</b> 人材育成方針の提示
◆5

◎ <b>市教委</b> 定例連絡協議会の設置 学校事務指導員制度の活用 *事務職員の事務処理負担軽減
連携 ◆4

◎ <b>学校</b> 事務職員個としてはなく、 <b>学校としての課題・成果の受け渡しができる事務職員 ◆3</b> *課題発見できる事務職員 *課題解決できる事務職員 ↓ キャリアに応じて『つかさどる事務職員』の役割を果たす
--

### 「all出雲」(=共同学校事務室)

◎ <b>統括(統括G長)</b>	全体指揮・組織マネジメント総括		
	function	contents	member
■ <b>リーダー-MTG</b>	運営する	・all「出雲」企画運営	◎ <b>事務リーダー(正副G長)</b>
	連携する	・市教委連携	
	調整する	・学校連携 ・WG調整	

課題・成果の受け渡し  
◆1

機能連携

□機能連携	function
☆出雲市事務職員会	研修
☆島根県公立小中学校事務職員会研究会	研究

課題・成果の受け渡し

課題解決メソッド	function	contents	member
	I 繋ぐ connect	・all「出雲」企画運営 ・課題・目的別MTGの企画運営 ・他機関との連携による活動	◎事務リーダー(正副G長)
	II 創る create		◎事務リーダー(正副G長) +必要に応じて その他事務職員
	III 確認する check	・既存マニュアル等の修正	◎事務リーダー(正副G長) +必要に応じて その他事務職員
●WGの持ち方 ・コワーキング(Coworking)スタイル *職務スペースを共有しながら各自それぞれ異なる仕事をすすめる、またコミュニケーションを積極的に取ることで知恵と情報をシェアし、仕事の質を高めていこうという発想のワークスタイル *スペースの確保...どこでもよいので少し広めの1フロア *備品等の確保...テーブル、椅子、ソファ、ホワイトボード、P.C、ネット環境、プリンタ それぞれのWG・メンバーが都合のよい時に独立して作業しながらも、価値観を共有する3CWG内で交流を図り情報交換を行うことができる。またWGメンバーと刺激しあい、仕事上での相乗効果も期待できる。			

課題・成果の受け渡し

■ <b>課題・目的別MTG</b>	member
i 地域	課題・目的に応じて 市内全事務職員
ii 規模 大・中・小	
iii 校種 小学校・中学校	
iv 中学校校区	
v 業務 検認・就学援助 年末調整等	
vi ジュニア層 育成	
vii その他課題に応じて 外国籍生徒児童等	
*課題を絞り、目的を明確にしたMTGを開催することで、会議の効率化など業務改善を図ると共に、質の高い結果・成果を得ることが期待できる	

### ◎さらに考えを深める必要があること

- ◆1 「学校」⇔「all出雲」間の具体的な課題・成果の受け渡し方法と課題の取扱い
- ◆2 課題集約センターでの課題解決マネジメント
- ◆3 学校で主体的に課題発見・課題解決ができる事務職員の育成
- ◆4 市教委との連携
- ◆5 県教委との関係

### ★実現に向けての課題・とりくみ

- 1 現在の事務支援グループ業務の整理
- 2 ジュニア層サポートの仕組みづくり
- 3 設置要綱・運営要項の整理
- 4 「学校事務改善委員会」の機能整理
- 5 関係組織、教職員へのはたらきかけ
- 6 場所の確保

⋮

「all出雲」では、関係機関や管理職と連携を図りながら、学校や学校事務が抱える課題解決を図り、その成果を学校経営の質的改善につなげ、学校の教育力向上をめざす。出雲市の学校事務職員は、「all出雲」をバックボーンにして、『実務系事務職員』から、実務も適正にこなす『企画系事務職員』(国立教育政策研究所 藤原文雄総括研究官 言)へ確実に進化を遂げていこうと考えている。



## 『進路保障』

西ノ島町立西ノ島中学校  
新谷 香苗

人権教育の講義を聴きに行くと必ず「進路保障」の話がでます。「進路保障」とは、すべての子どもたちの実態とその背景に目を向け、一人一人が将来をたくましく切り拓いていく力、すなわち生きる力を育てていこうという理念のことを言います。

昨年、初めての人事異動を経験しました。今までは小学校勤務でしたが、他町の中学校へと異動になり、新しいことだらけで仕事が忙しく、生徒と関わる余裕がありませんでした。全校生徒50人の小規模校ですが、一年かけても生徒全員の名前を覚えられませんでした。子どもたちと関わろうとする姿勢が足りなかったと感じています。今年卒業して高校生になった生徒に会うと、挨拶をしてもらえますが、その生徒の名前がわからない時があり、昨年もっと積極的に関わっていればよかったと後悔しています。

学校事務職員と子どもたちとの関わりは教員と比べ少ないと感じています。そんな中、学校事務職員としてどう「進路保障」に関わっていけばいいのでしょうか。私は「チーム学校」の一員として、まず生徒のことを知ることから始めようと考えています。昨年のことを反省し、生徒一人一人ともっと関わっていくために自分から積極的に話しかけていきたいと思えます。

教員から見えない視点を持ち、生徒の「進路保障」をともに考えていけるようにしたいです。



原作：千賀ひろみ 画：大橋幸子

### 【編集後記】

『半分、青い』ご覧になっている方もおられると思います。私の癒しの15分間です。この朝ドラで一貫しているのは、『万事、気持ちの持ち方で如何様にもなる』ということだと思います。物事をマイナスにとらえればその様に、発想の転換でプラスにとらえればその様に。おもしろきなき世をおもしろく。万事自分の気持ち次第だとおまじないをかけるようにしています。(Y・J)